

平成27年度 全国保健師長会活動方針

今日の日本は、少子高齢化による人口減少社会へ突入しています。

平成25年4月に改正された「地域における保健師の保健活動に関する指針」では、新たな時代に求められる保健師の保健活動の方向性が示されました。指針策定から3年目を迎えますが、「地域に責任を持った活動の推進」、「統括的な役割を担う保健師の位置づけの明確化や人材育成」などに引き続き取り組む必要があります。

日本再興戦略のテーマの一つに、「国民の健康寿命の延伸」を目標に、2030年時点の目指す社会像として、「予防から治療、早期在宅復帰に至る適正なケアサイクルの確立」が掲げられており、目標達成に向け保健師には多くの期待が寄せられています。

このような中、平成26年6月に「医療介護総合推進法」が成立し、今後、市町村には地域包括ケアシステムの構築が求められ、都道府県には市町村を支援する役割が期待されています。

今、私たち保健師が積極的に取り組んでいかなければならない大きな課題としては、高齢者に限らず、すべての世代が住み慣れた地域で、できる限り継続して生活できるように、適切なサービスや多様な支援を提供する必要があります。そのためには、保健・医療・福祉の連携やボランティア等の地域の様々な資源をネットワーク化し、地域の実情に応じた地域包括ケアシステムを構築するとともに、ソーシャルキャピタルの醸成に努め、人々が安心して暮らせるまちづくりを推進していくことが急務となっています。

加えて、これからの保健師活動には、多岐にわたる専門的能力の充実が今まで以上に求められており、そのためには、保健師基礎教育課程における公衆衛生看護学実習の充実や現任教育を通して、ともに育ちあう職場風土を築いていくことが重要です。

全国保健師長会では各ブロックの研修や研究的な取組を推進するとともに、生き生きと活力ある保健師活動を目指し、次世代を担う若い保健師の成長を支援しながら、つながりを強化していきます。

平成27年度全国保健師長会活動テーマ

“社会の課題に向き合う保健師活動の展開”

— 保健・医療・福祉をつなぎ安心して健やかに暮らせるまちづくりの実現—

平成27年度活動方針

1 保健師の地域保健福祉分野における専門性の確立

- 地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築について積極的に推進する。
- 地域に責任を持った活動を強化していくための具体的な方策について検討する。
- 地域の課題解決に向けたソーシャルキャピタルの醸成及び活用の取組を推進する。
- 各自治体の特性に応じた保健師活動指針の作成を支援する。
- 保健師の現任教育の充実や保健師学生の臨地実習の充実に向けた取組を推進する。

2 ブロック、支部活動の強化

- 健康寿命の延伸・健康格差の縮小、統括的役割を担う保健師の育成等への取組など、各ブロックでテーマを決め、情報交換・研修等を活発に行い、自主的な活動を推進する。
- 会員以外の若手保健師との積極的な意見交換・交流を行う。

3 息の長い被災地支援を実施

- 被災地の保健師活動を振り返り、「保健師活動の軌跡」をまとめ今後の災害支援活動の一助とする。

4 会員数の拡大

- リーダー的立場の保健師の入会を増やす。特に市町村への働きかけを強化する。